

手術制限に関するアンケート調査結果（2020年5月4-5月10日）

日本麻酔科学会COVID-19 対策特別委員会は2020年5月4-5月10日に全国の認定病院に対してアンケートを行いました。

質問内容

” 本調査は毎週の日本全国の手術件数と手術室制限状況（COVID-19患者専用部屋やICU化された手術室の数）を調査することにより、麻酔科医・手術室のワークロード現状を調査することにあります。

都道府県名だけの入力ですので、施設の特定がされることはありません。ワークロードの減少、増加を把握することで、COVID-19による手術施行への影響や回復程度を類推することが可能になります。

さらには、麻酔科医の配置などに対する要望にも対応していきたいと思いますので、週に一度の定期的入力をお願いいたします。”

結果

1415の認定病院のうち493施設から回答がありました。施設合計の手術室数は3576室、そのうち81室(1.6%)がCOVID-19専用の手術室として準備されていました。この割合は前回(2.4%)より少し減少していました。今回は何らかの理由で制限されている手術室数が277室で全体の7.8%でした。全体として調査期間に13100件の手術が行われ、この数字は昨年度の平均週手術件数と比較すると41.1%で前回の79.2%より大きく減少していましたが、これはゴールデンウィークの影響と考えられます。次回はゴールデンウィーク後の統計がでますので、以前との比較ができますと思います。

本アンケートは全例調査ではありませんので、回答された施設の現状であり、必ずしも現状の全てを表しているものではありません。日本麻酔科学会COVID-19対策特別委員会は本調査を毎週継続して行い、報告していきます。ご面倒をおかけいたしますが、当面の間、毎週のご入力協力をお願いいたします。

COVID-19 対策特別委員会